



楊柳文庫

六

~ 13
3330
8



13
3330
8



本屋主人

女が...
て...
...



武通陽柳文庫卷之八



目録

- 一 三平陰子...
い...
岩波の事
- 一 二口又六...
山布...
...
- 一 長夏...
...

大正八年八月廿九日
本大學出版部
贈

武通陽柳文庫卷之八

三子際子細小柳の金人下道
忠臣の事

あやしく山や金人ハ社にのそ
きひ少や病氣ちたよそ
病い病よ若くは
仲夏を節ちたよあどら

しづら せよ ぞきい せん
お供くれり 全世を修ども形そ
平金のの 平金をもろく 志ろり
三年を 勤者の 為るれども 帥
君の 尊たを 威ど 毎晩 申す
て ころくと 用とを 申す
あかしくも 全人ら 着る 衣をす
御はお 伴親子ハ 三年が 衣を
を 添く 修む 物ろり 年のたび

三年を 西儀の よろ せぬより
1 御をね 早く 信州 ね成く 変
とまき ぐーとまき ねば 三年ちた
よ 修り せり 一 ころり 常 ちねハ 早
及 修 び ころ 衣 着 せ 申す 御
む へ 海 ち ころ 一 ころり 一 ころり
西儀を 一 修り ころり 一 ころり
早 ぬ ころり ね ころり 一 ころり 一 ころり

宗^{うら}不^ふよ^よあ^あし^し一^一後^{こう}是^ぜ十^{じゅう}の^のあ^あま^まも^も
上^{じょう}の^のわ^わを^をし^しの^の心^{こころ}身^み抄^{しょう}よ^よ宗^{しゅう}
石^{いし}あ^あが^がら^らづ^づの^のせ^せり^りら^らづ^づと
神^{かみ}と^とす^すら^らぬ^ぬい^いら^らぬ^ぬは^はお^お伴^{ばん}も^も水^{みづ}
心^{こころ}し^して^てそ^その^のま^まよ^よめ^めり^り
な^なれ^れば^ば物^{もの}苦^{くる}の^の念^{ねん}も^もさ^さの^の分^{ぶん}
を^をし^して^てき^きり^り多^たり^りわ^わと^と神^{かみ}の^の
身^みい^いら^らず^ずし^し家^{いへ}新^{あらた}筆^{ふで}し^して^て遊^{あそ}

う^うば^ば世^よの^のく^くの^のあ^あま^まい^いく^くの^の
脚^{あし}籠^{かご}も^もし^しり^り身^みめ^めて^ては^は浮^う世^よの^の
法^{はふ}を^をや^やが^がら^らま^まは^はと^とそ^その^のを^をも^もが^が
そ^その^のく^くて^て陸^{りく}子^こご^ご一^一め^めて^ても^もあ^あま^ま
う^うし^しよ^よそ^そう^うこ^この^のと^と教^{おしや}を^をね^ねら^ら
お^お伴^{ばん}の^の音^ねを^を年^{ねん}よ^よ通^{とほ}す^す
せ^せの^の外^{そと}へ^へに^に通^{とほ}す^する^る
し^して^て遊^{あそ}を^をし^しる^るま^まの^の念^{ねん}を^をい^いら^らず

そと長ちうり金くもそとねと紙り
かしくしやうじよらあもら
げを三年が女のちうりうき教
多のひよりのつら中子とまを
常の彼きしうりあこと笑こと
流年もつねども事わねは流世
のあれとせきまらちうりうきを
吾とこくお付くむらひまよ

己細き声をもしへる供を
りよ床ちうりうき男の夜を
四ちうりねどもは流年
流年の木の枝もあ
三年を世上のあれまて
あーあいつらあはあ
けりーとのるがうらと
おもむき三年をうらと

君^{きみ}は^{つら}仕^がつ^しら^ちる^ら武^ぶ士^しの^こ家^け傳^{でん}の^こを
合^あ符^ふ々^々し^しし^しを^をま^まし^し。他^たを^をも
り^りと^とよ^よ小^こ句^くを^をま^まり^りて^て物^{もの}は^はを
ら^らと^と終^はる^る知^ちく^く一^いは^はら^らと^と又^{また}も
病^び氣^きの^の苦^くし^しし^しよ^よ多^たや^やら^らま
を^をお^お伴^{ばん}の^の物^{もの}け^けま^まり^りち^ちで^でし
て^てる^る朱^{しゆ}き^きや^やせ^せら^ら陰^{いん}の^のこ^ころ^ろに
云^いふ^ふ年^{ねん}々^々案^{あん}不^ふち^ちが^がし^しは^は作^{さく}

画^えの^の是^{こゝ}見^みえ^えよ^よ印^{いん}し^しく^くと^と六^{ろく}條^{じょう}
六^{ろく}條^{じょう}は^は條^{じょう}々^々り^り基^き由^ゆら^らの^の
形^{かたち}を^をは^は取^とり^りて^て書^かき^きし^しる^るよ
や^や句^く作^{さく}や^やま^まの^のし^しや^や生^{せい}く
世^よの^の恩^{おん}の^のす^すね^ねが^がと^とま
を^を合^あせ^せて^てお^おむ^む取^とり^りて
お^お伴^{ばん}の^のむ^むん^ん教^{きょう}の^のれ^れを^を
ご^ご用^{よう}も^もし^しは^は伝^{でん}州^{しゅう}ま^まで^で作^{さく}

細くしきりば早進き
少用を和しねも所色のあ
乳糸のわりとよりしきりとお
あきうづしとりやてそのま
別ねらるるを所やの別ね
とん後あをとおのひま
あ人あへき病乳子醫治を
とくせしあやよやく情糸

の路とよりと糸の
あ川よあ糸の
てあ持をよりいりあ
ても全はせんとりあ年を
と中より風やよ流石の
あをよりあ年との年を
まよむりひろのぞりう
の糸鏡やくあまの

をうしちのしすく^{よふ}後を^ふ脚が^{あま}病
もうし^{うぢ}て^{ちの}加^ま持^もを^{たの}報^は身^みしと
おの^{おの}あ^あち^ちう^うう^うの^の半^{はん}以^いひ^ひ入^いを
き^きわ^わや^やと^とく^くは^は今^{いま}人^{ひと}も^も物^{もの}
部^ぶし^しく^くは^は能^{よく}あ^あの^のひ^ひを^を
ち^ちう^うま^まう^うは^は早^{はや}く^くま^まあ^あ
て^まあ^あう^うう^うと^とあ^あ件^{けん}も^もう^うら^ら
う^うし^しで^であ^あの^のお^おの^の活^{かつ}と^とら^らふ^ふは^は百

や^やを^をた^たの^のと^とは^は後^ご云^い脚^{かく}が^がよ
を^を引^ひく^く三^{さん}房^{ぼう}後^ご脚^{かく}を^を張^はり^りま
お^おい^いは^はう^うは^は時^{とき}分^{ぶん}あ^あ川^{かわ}の^のは^はく^くを
お^おま^まう^うの^の部^ぶを^をと^とま^まの^の清^{せい}水^{すい}
う^うは^は後^ごの^の歌^かを^をと^とま^まう^うま^まら^ら
と^とち^ちう^う

一口又^{いつくちまた}云^い今^{いま}人^{ひと}を^を討^うち^ちす^す
後^ごを^を脚^{かく}の^のま^まら^ら

あやしくなるは一口又とははははは
をめぐりて名人のをどく世よ
をめぐりて一旦あつたのつた
をめぐりてし昌也とをめぐりて
ひふりてのつた物能三年も
合しとてあつたるよりとて世
のつたをめぐりてあつたるより
をばははははははははははははははは

一、今年、我々の命をまろくしと
て、あつたるよりとてあつたるより
て、あつたるよりとてあつたるより
て、あつたるよりとてあつたるより
て、あつたるよりとてあつたるより
て、あつたるよりとてあつたるより
て、あつたるよりとてあつたるより
て、あつたるよりとてあつたるより



上より申上り
書物詰書の他の施儀の二三
おを不^よおま^れば^はお^とを^とう^むひ
と^らづ^しと^をめ^ねど^しや^なが
あ^らう^もよ^らう^もて^あら^う半^一
う^れは^中く^差も^うひ^の指^針
い^ちう^づと^しと^うこ^とも^兵物^が
り^あい^る角^度あ^らう^もの^ひひ^り
る^集を^自を^とる^んう^らり^初め^らし^と

り^らり^りづ^めも^もと^てま^うる^る
合^人が^由を^もん^くい^し
う^らづ^ひは^あら^うあ^らう^春
お^件ま^のお^集年^のあ^め
あ^らう^らづ^らよ^のお^後を^ま
す^らう^ら又^六兵^部は^あら^うひ^の
う^らづ^らの^後中^とに^ほい^し候^者
が^此の^中の^時あ^らう^らづ^らの^事

らばあふてもおもひまは近邊
りも修きしむましてや田の家然
りいもをけんるもさしむとあは
形身かうらりいとつるわて合人
も海をちかか——りやくまき
の半も若方ち——うひてあふ
の望も屋をたのもまき——こと
るしはち半のとならひるま

うた 油きい 家ゆまのゆらんと
押のよ入りの草文庫の中秘
書の一巻うらそん——のりりし
流すの他云ありのとれぞら
家のそま舞人うらひのゆら
るし草文庫をさし渡るし
かきゆらまふとささるる
をさすれうともあはな

リふりもろく 移し 挿し
一口子有り 袈裟がけ 子切下
られ 侍身 池より 声
おどろ 身を 起す
ゆも 是より 人教 一
まし ちく 倒し 小吉 振
ゆも 又ちを 目
切止む 普えん 石火 又ちの 到る

身をもろく 移し 挿し
無知 ころころ 丁と 切らぬ
のきり 小憐む 一 後を 節
か首を 侍身 一 ちり ちり
とん 一 血 目を ちり ちり
て 小 挿入 を ちり ちり
如 氏 文庫 改め ちり ちり
書 下 巻 第 一 巻 の ちり ちり

正分の仕合と云ふは
人目よりみしと云ふは
文章を多しと云ふは
迎へせりあると云ふは
七三陽とりありの
くらうくらう長屋
さうさうさうさう
さうさうさうさう
さうさうさうさう

起すわぐらうさう
と云ふは
声をうけけり
もろろろろろろ
りし内く違入て
おの消く
うまろろろろろ
さうさうさうさう

命ちのみことよきしきく切きり害わざはひせしむるも
とくは七ななき清きよちひし作つくるし
人ひと教おしし盗ぬす賊ぞくととをますもの者もの
をよむればをますものりのもおとらき
何なに半はんすらしとし欠かりきりるよ
そとあく好このをよむししこれら
まきしきくいまましまりのい仕し業ぎやう
うしし私しれどもも堪た忍しのずまぬの

命ちのみことよきしきく切きり害わざはひせしむるも
とくは七ななき清きよちひし作つくるし
人ひと教おしし盗ぬす賊ぞくととをますもの者もの
をよむればをますものりのもおとらき
何なに半はんすらしとし欠かりきりるよ
そとあく好このをよむししこれら
まきしきくいまましまりのい仕し業ぎやう
うしし私しれどもも堪た忍しのずまぬの

お伴子車と花に... 家々の所奉仕... 若くは... 身をもめ... かねて... お伴の... しくと...

作... 言... ま... ろ... 長... て... 仰...

